



# 帰国報告書

国際ロータリー 第2690地区  
青少年交換委員会 御中

提出日：2015年 7月 17日

※この帰国報告書は今後の青少年交換プログラムをより良くするため、地区委員並びに派遣希望学生に反映する貴重なものです。帰国後、10日以内に指定アドレスに必ず返信してください。

個人記録				
氏名	岡邊 晴香			
出身高校:	岡山県立岡山城東高等学校	派遣時の学年	3年生	
保護者はロータアンですか	YES / ○NO			
スポンサーロータリークラブ名	岡山旭川ロータリークラブ			
ホストロータリークラブ名	Grafton Rotary Club			
派遣国	派遣国	アメリカ合衆国	派遣地区 NO.	7530
	派遣地区(州)	ウェストヴァージニア州	都市(町)名	グラフトン
	派遣先国との時差	13時間 0分		
出発	出発日	:2014年 8月 31日		
	出発空港	岡山空港	出発便	NH654
	最終到着空港:	Pittsburg International Airport	所要時間	約25時間30分
帰国	帰国日	2015年 7月 8日		
	出発空港	Chicago O'Hare	帰国便	NH1011
	帰国到着空港:	成田空港	所要時間	約13時間
通学校	学校名	Grafton High School		
	制服	有 / ○無	(私立・公立)	公立
	(共学・男子校・女子校)	共学	専攻科目	Pre-Calculus, Library, Civics, Band, AP Language, Guitar, Anatomy
	学年	12年	クラス人数	5~50名
	学年人数	150名	全校人数	約700名

## ホストファミリー

	氏 名	職 業	年 令	ロータアン?	ホスト期間	
第1	Jeff Isner	無	53	YES / ONO	1/ 9/14 2/7/15	25/ 1/15 7/7/15
第2	Lorraine Isner	サッカーコーチ	50	OYES / NO	同上	同上
第3	Mike Skaggs	報道関係	53	YES / ONO	25/ 1/25	7/2/15
第4	Blanca Skaggs	教師	43	YES / ONO	同上	同上
第5	Keith Skaggs	学生	15	YES / ONO	同上	同上

### ロータリー青少年交換プログラムについて

1. どこで知りましたか。

学校で配布された募集要項

2. 留学を志願した理由を述べて下さい。

小さい頃から英語に親しみがあり、将来に生かす英語力をつけたいと思ったから。

3. 留学を志願したのはあなた自身の希望ですか、それとも誰かに勧められましたか。

留学したいという希望はかねてから自分で持っていたが、このプログラムに申し込もうと進めたのは母。

#### 【派遣準備期間】

4. 派遣候補生として合格後、派遣先が決まるまでの間期待と不安が入り交じっていたと思いますがその感想を述べて下さい。

最初に決まった時は現実味が無かった。書類や予防接種などを進めて行くうちに実感がわき、ワクワクするようになった。未知の世界への不安もあったが、自分がどのように変わるか、どれくらい英語が上達するか楽しみでもあった。

5. 1年間の留学により進級出来ない可能性もありますがその点について述べて下さい。

私は高校3年生を中断しての留学なので、大学入試への不安は準備中も留学中も持っていた。同級生が先に卒業してしまうのも寂しかったが、連絡は取りあえるし帰国後の再会を楽しんでいた。

6. 派遣先国が決まった後、その国の言葉に慣れ親しむ為にどのような努力をしましたか。

英字新聞の購読、英語のニュースやドラマの視聴、英会話レッスンを週一回から週二回に増やした。

7. 派遣までの間に数回のオリエンテーションや受入留学生やROTEX(先輩留学生)との交流会等を開催し留学先でのいろいろな経験談を聞きましたがどのように役に立ちましたか。

どれほど不安でも、ROTEX の方々のお話を聞いて「何とかなる」と思えた。また、バッジでいっぱいロータリージャケットを見て留学がさらに楽しみになった。

8. 派遣までにスポンサーロータリークラブの例会に何回出席しましたか、又その時の感想を述べて下さい

多くの方に「頑張ってください」と声をかけていただき、励みになった。何度かスピーチをさせていただくことで人前で話すことに出発前から慣れることができとてもいい経験をさせていただいたと思う。

#### 【派遣先国に到着後】

9. 最終到着空港までトラブルはありませんでしたか。

特に無し
10. 空港には誰が出迎えてくれましたか。
Jeff と Lorraine (最初のホストファミリー)
11. 第1ホストファミリーに着いたときの感想は。
とても緊張していましたが、とても親しみを持って接してくれてほっとした。安心感のある家庭だと感じた。
12. 派遣先の街の環境、人口は。
人口約 5200 人。とても長閑な田舎。虫が庭を飛ぶほど自然豊かな町。みんながお互いのことを知っているような小さな親しみ深い町。
<b>ホストファミリーについて</b>
13. 部屋は個室でしたか。
はい
14. 受入態勢はどうでしたか、問題はありませんでしたか。
何も問題は無かった。第一、第二ホストファミリーともに、あたたかく迎えてくれた。
15. コミュニケーションについて、どのような問題を感じましたか。
初めはホストファミリーがゆっくり話してくれたので問題無かった。徐々に話す速さを上げてくれたのでリスニングの力がついたと思う。第二ホストマザーはベネズエラ出身でスペイン語のアクセントが強いので最初は聞き取りにくかったが、一週間ほどで慣れた。
16. 食事について問題はありませんでしたか。
問題は無かった。
17. 家庭でどのような手伝いをしましたか。
両家庭とも手伝わなくていいと言ってくれたので、お皿を洗ったり料理を一緒にしたり自分の洗濯物は自分です、といったことだけだった。
18. 家族の中で主に誰と話をしたり、相談をしましたか。
第一ホストファミリーではホストマザーとファザーの両方と同じくらい話をした。第二ホストファミリーでは、ホストファザーが長期で家を空けることが多いのでホストマザー・ブラザーとの時間が多かった。ホストファザーが家にいるときはホストファザーとの時間も多かった。
19. お土産は何を持っていきましたか、又どんなプレゼントが喜ばれると思いますか(具体的に)。
手ぬぐいや井草で織ったコースター・ランチョンマットを持っていった。寿司の知名度が圧倒的なので寿司の材料やちらしずしの素などが喜ばれると思う。
20. ホームシックにかかった事がありますか。それはどのようなときですか。又どの様にして克服しましたか。
学校が始まるまでは特にすることが無く、時差ボケで夜も眠れないので家を思うことはあったが、ホームシックというほどでもなかった。
<b>《 ホストファミリーに関して是非後輩の留学生に伝えておきたい事 》</b>
①自室にこもらず、リビングに積極的に行ってほしい。
②「買い物に行くけど一緒に行く?」といった誘いにはよほど忙しかったり気分が悪くない限り yes と答えてほしい。
③興味が無いものや何かわからないものでもとりあえず試してみる(食べ物など)
④とりあえず何でも質問してみる
⑤保険の情報やパスポートなど大事な物は一か所にまとめて場所を伝えておく。

## 学校生活について

21. 受講科目を選ぶとき誰に相談しましたか。
ホストマザーと学校のカウンセラー
22. 受講した科目を全て明記して下さい。
Pre-Calculus, Library, Civics, Band, AP Language, Anatomy
23. 好きな科目は何でしたか。
嘘偽りなく全部好きだった
24. 嫌いな科目は何でしたか。
嫌いではなかったが、苦戦したのは Civics。
25. 現地の学生と同じカリキュラムでしたか。
はい。
26. 授業にはいつ頃からついていけるようになりましたか。
Civics と AP Language は要領を掴むのに一か月ほどかかった。
27. 通学方法は何でしたか、又通学時間はどのくらいかかりましたか。
第一ホストファミリーの家からは徒歩5分。第二ホストファミリーの家からは車で15分ほど(ホストマザーが同じ学校の先生なのでホストマザーの運転で通学した)。
28. 昼食はどのようにとりましたか(費用は平均どれくらいかかりましたか)。
家でサンドイッチなどを作って持っていった。
29. 授業は何時に始まり何時に終わりましたか(始業/終業時間)。
8:00/3:10
30. 図書館や自習室にて、1人で自習するよう指示されたことはありましたか。
一度も無かった。
31. 語学学校へ行くよう勧められましたか。
勧められたことは無かった。
32. 日本語の科目はありましたか。
無かった。ただ、第二ホストブラザーがオンラインで日本語の授業を取っていたので手助けすることはあった。
33. 学校から教材を提供されましたか。
教科書などは提供された。他の生徒と同じように学年末に返却した。
35. 個人指導はありましたか(カウンセラーに相談したことはありますか)。
私の方から個人的に質問に行くことはあったが、個人指導は無かった。
36. 単位はとれましたか(3年生に入った学生は現地の学校を卒業できましたか)。
1年しか通学していないので卒業に必要なすべての単位を取ることはできず卒業は形だけだったが、受講した科目はすべて単位を取ることができた。
37. 帰国後(復学後)その単位は学校で認定されましたか。
認定されない。
38. 旅行(修学旅行/遠足など)はありましたか。
フィールドトリップと呼ばれるものがあって、地元の図書館や役場のような場所に見学に行った。
39. 学校で良い友達ことができましたか、いつ頃どのような状況で知り合いましたか。
第一ホストマザーが学校のサッカーのコーチをしているので、サッカーチームのメンバーを紹介してもらっ

たのが最初だった。そこから少しずつ友達が増え、バンドのメンバーなどとてもいい友達ができる。

40. 日本の教育制度と派遣先国の相違点を挙げて下さい（日本の学校と現地の学校との差）。  
自由の国だけあって、生徒と先生の垣根がとても低い。先生と生徒がほぼ平等で、質問や発言が自由にできる空気は日本の学校と大きく違う。

41. 大学進学状況を日本と派遣先国を比較して下さい。  
大学進学は日本よりも比較的簡単らしい。

**《 学校生活に関して是非後輩の留学生に伝えておきたい事 》**

①初めは不安だと思うが、誰も「敵」ではないので構え過ぎず自然体で接した方がいいと思う。  
②授業は分からなかったら質問すればいい。皆いろいろな質問をするので躊躇する必要は無い。  
③スポーツや音楽など、何か話のネタになるものがあるといい。  
④①と矛盾するかもしれませんが、関わらない方がいい人もいる。  
⑤言語の違いを言い訳にしてほしくない。

**宗教について**

42. 考える事があれば述べて下さい。  
キリスト教徒が多いのでホストファミリーによっては教会に連れて行ってってくれることもある。問題が無ければ何度か一緒に行くのも異文化の経験になる。

**ホスト・ロータリークラブについて**

<b>概要</b>	ホストクラブ名	Grafton Rotary Club
	ホストクラブ会員数	33(新しく2人入る予定)
	ホストクラブ例会開催場所	Jerry's Restaurant (地元のレストラン)
	ホストクラブ例会開催時間	(朝 / ○昼 / 夜 の例会)                      12時 00分 ~ 13時 00分 (水)

43. 1ヶ月に何回例会に出席しましたか。  
例会には定期的に出席しなくていいと言ってくれた。代わりに月に一回くらいクラブの活動(募金活動など)に参加した。

44. 小遣いはいくらでしたか。  
この金額はGUARANTEE FORM に提示されていたものと同額 でしたか。  
(現地通貨で ⇒ \$125.00                      )  
(同じ / 違う⇒同じ                      )

45. スピーチは何回しましたか。又日本の文化や自分の街などをどのような方法で紹介をしましたか。会員の皆さんの反応はどうでしたか。  
スピーチは3~4回した。日本の事はパワーポイントで紹介した。アメリカ文化との違いはとても興味をもってくれた。また、元教育関係者が多く、学校の事も多く質問してくれた。

46. 日本に関してどのような質問が多かったですか。又何に興味を示していましたか。

45 参照

47. クラブ例会、EXCHANGE STUDENT MEETING, 地区行事などへの参加について述べて下さい。  
月に一回ほど、地区の留学生との集まりが合った。フットボール観戦やスキーに行った。地区大会や

RYLA にも参加した。	
48. ホストクラブの青少年交換プログラム活動, さまざまな奉仕活動などで印象に残っているものを述べて下さい。又現地で何か奉仕活動にたずさわりましたか。	
Grafton Rotary Club の活動は、地域のロータリアンでない人にもよく知られていると感じた。フライドポテトやジェリービーンズを売って、そのお金を寄付したり、募金活動をしたりした。	
49. ロータリークラブ又は地区青少年交換委員会(YOUTH EXCHANGE COMMITTEE)のオリエンテーションはありましたか。あった場合その内容及び回数を述べて下さい。	
47 で書いた集まりの第一回がオリエンテーションだった。4D ルールを始め、ルールやアドバイスの説明があった。	
50. 日本のロータリークラブと派遣先のロータリークラブを比較して下さい。	
Grafton では、ロータリークラブがより身近な存在だと感じた。また、学校との関わりも深く、生徒を応援する活動が多いと思った。	
<b>派遣先国での生活について</b>	
51. a. 日常生活で言葉をまあまあ理解出来るまでにどの位の月数を要しましたか。	( 0 ヶ月位)
b. 日常生活で言葉をかなり理解出来るまでにどの位の月数を要しましたか。	( 4 ヶ月位)
c. 日常会話がまあまあ出来るまでにどの位の月数を要しましたか。	( 1 ヶ月位)
d. 日常会話がかなり出来るまでにどの位の月数を要しましたか。	( 5 ヶ月位)
e. 環境, 考え方, 風俗, 習慣, 文化の違いに馴れるまでどの位の月数を要しましたか。	( 1 ヶ月位)
52. その違いの中でに馴れるのに困難を感じたのは何でしたか。又それをどのように対応・克服しましたか。どうしても馴染めないものがありましたか。	
日本にある恥の文化や「察する」という文化が無く、初めは言いたいことを言えずにもどかしいことがあった。それに気づいてからは、できるだけなんでも聞こうと心がけた。	
53. 学校での友達を除き、ロータリー・他国からの交換留学生・地域社会などで良い友達ができましたか。それはどのような状況で知り合いましたか。	
ホストファミリーの親戚や友達などとはとても仲良くしてもらった。また、何度かキャンプに参加し、そこで知り合った友達とも電話やメールを頻繁にするようになった。	
54. 健康状態はどうでしたか。	
5月の末に火傷を負う事故があったが、それ以外は健康だった。	
55. 気候はどうでしたか。	
岡山に比べると、冬は寒く雪も多かった。夏も湿度が低く過ごしやすかった。	
56. a. 普段どのような服装で過ごしましたか。それは日本で準備をしたほうがいいのか、それとも現地で揃えたほうがいいのか。	
基本的にズボンとTシャツやチェックのシャツ、セーターなどラフな格好だった。日本から持っていった方がいいし、現地で買った方がいいと思う。	
b. 特別な服装は必要でしたか(それはどのようなものでしたか)具体的に述べて下さい。	
ダンスパーティが何度かあるのでドレスが必要だった。現地で買ったほうがいいのか。また、ディナーなどで着るフォーマルな服も一着は持っていった(買った)ほうがいいのか。	
57. パスポート, 航空券, お金(T/C)等の貴重品はどのように保管しましたか。	
同じ引き出しに入れて保管しておいた。ホストファミリーにはその位置を覚えておく。	
58. ピンバッジはどのような場面で交換しましたか。	
アメリカ中のロータリー留学生が参加できる旅行が何度かあり、その旅行で交換した。	

59. どこに旅行に行きましたか。その中で特に素晴らしい所はどこでしたか。誰と行きましたか。地区委員会推薦の旅行はありましたか。(旅行の費用はどれ程かかりましたか)	
東海岸(ワシントン DC、NY、ボストン)。ワシントン DC の博物館は素晴らしかった。アメリカに来ているロータリーの留学生が80人ほど参加していた。費用は\$950 だった。	
60. 留学中の楽しかった事を挙げて下さい。	
学校やキャンプなどで新しい友達に出会った事。その友達に日本の事を教えたり日本のイメージを教してもらったりしたこと。	
61. 留学中の苦しかった事を挙げて下さい。又それをどのように克服しましたか。	
AP English の授業で英語の古典を読んだときはまったく理解できず大変だった。人一倍時間をかけて、分からない部分は書きだして分析したり先生に聞きに行ったりした。	
62. この一年間の留学生活で何を得たと思いますか。	
多少の事ではおろおろしなくなったと思う。新しいことに挑戦したり、新しい人に会ったり、初対面の人と話すことを恐れなくなった。	
63. 帰国後それをどのように活かそうと思いますか。	
新しい人間関係を学校以外でも築けたらいいなと思う。	
64. 将来この経験をどのように結びつけたいとおもいますか。	
英語力はそのまま仕事に生かしたい。新しいことを恐れず挑戦できるのは、仕事でもそれ以外でも大切なことだと思う。	
65. 留学への期待と実体験との間にどのような差がありましたか。期待以上だった事、期待はずれだった事を述べて下さい。	
「とりあえずアメリカに行けばバイリンガルになれる」と思っていた面があったが、それはあり得ないことで、自分から話さないと英語は上達しない。ホストファミリーや現地での友達はとても期待以上だった。期待外れだったことは特に思い浮かばない。	
66. 他の留学制度と比較しロータリーの青少年交換プログラムの長所・短所を述べて下さい。	
長所は、学校の生徒以外にも交流の場がたくさんあることだと思う。短所は強いて言えば、地区の留学生の集まりが強制参加だったのでプロムなどの学校行事を逃してしまったこと。	
67. 今後はROTEXとして後輩の指導に協力をして頂くこととなりますが、自分の体験を通して今後の派遣学生に対する アドバイスを5項目以上挙げて下さい。	
①	もちろん文化や人柄の違いはあるが、当たり前だけれど同じ人間であることは忘れないでほしい。
②	浴衣やお茶などを披露する機会はなかなか無いが、日本料理はいくつか作れるようになっておきたい。
③	「日本の方がいい」という姿勢で日本との違いを見ないでほしい。
④	友達を作るのはもちろんいいことだが、誰もかれも手放しで仲良くなるのは危険かもしれない。
⑤	言語のコンプレックスは気にしないでいい。みんな分かろうとしてくれる。
⑥	日本の学校に影響は無いが、留学先でも学校の授業・活動はきちんと取り組んでほしい。
⑦	
68. 今後のあなたの夢を述べて下さい。	
日本の英語教育をもっと実用的なものにすること。	
69. ロータリーの青少年交換プログラムに対する建設的提案、意見を述べて下さい。	
ロータリアンの関係者以外も参加できるように学校などにもっと紹介したらいいと思う。	

## 1年間のロータリー留学生生活を振り返っての感想

一年間は長いようで本当に短かった。最後の一か月は、もう一年いたいと思うほどだった。

最初はホストファミリーとも学校の生徒ともどのように接していいかわからず、いわゆる「普通のお喋り」がなかなかできずに焦る時期もあったが、だんだんと英語力的にも精神的にも話せる量が増えていったのがうれしかった。学校ではきっと最後まで「おとなしい子」と思われていたと思うが、それで友達への接し方や会話の質が上がって行ったことに関しては満足している。

授業は思ったより大変ではなく、現地の生徒ともそんなに劣らない成績を取ることができ、先生からも応援してもらって充実した学校生活を送ることができた。アメリカでは生徒はたとえ先生に対してでも抗議すれば聞いてもらえると思っている人が多く、少し自由すぎる授業に驚くこともあったが慣れるとそれもとて面白かった。と同時に、日本の礼儀正しさを誇らしく思うこともあった。

アメリカ人の日本に対するイメージは割と良く、授業やテレビなどで日本の話が出てうれしく思うこともあった。アメリカの愛国心はとても強いが、日本人ももう少し自分の国を誇ってもいいのではないかとアメリカで生活してみて思った。

同じ先進国でも日本とアメリカでは多くの違いがあって、それぞれにいいところと悪いところがある。お互いの国から学べることはたくさんあると思うし、一年間で学んだことをできるだけ日本で発信できたらいいと思う。

※全ての質問項目について正直にかつ出来るだけ詳細に記載してください。

レイアウトに拘らず、段は自由に追加してください。